

震災の教訓 次世代に

南三陸 語り部たちがシンポ

未来への伝承
～10年・100年・1000年先へ繋ぐために必要なこ

分科会で意見を発表する高校生や小学生＝南三陸町で



震災の教訓を共有し
て防災に生かそうと、
各地の経験を話し合う

「全国被災地語り部シ
ンポジウム」が25日、
南三陸町の南三陸ホテ
ル観洋で始まった。26
日までの2日間、東日
本大震災や熊本地震の
被災後に語り部になっ
た人たちが、取り組む

べき課題や世界への発
信の方法について話し
合う。

2016年から毎年
開かれ、今回が3回目。
語り部同士が意見を交
わすパネルディスカッ
ションがあり、岩手県
宮古市の宮古観光文化
交流協会「学ぶ防災」
ガイド、元田久美子さ

んが「津波を経験した
私たちがだからこそ伝え
ないといけない。亡く
なった人の命を無駄に
せず、次の世代につな
げたい」と力を込めた。

震災の語り部活動に
ついて調査している上
智大比較文化研究所の
客員研究員、フラビア
・フルコさんは「これ
から震災の体験がない
人も多くなる。外国人
への対応ができる語り
部を増やし、海外の被
災地とつながることも
大事。次世代の中学生、
高校生と一緒に考えて
はどうか」と提案した。

学生たちが「震災を知
らない世代が、知って
いる世代から(体験な
どを)聞いていないと

命を守れない。命を守
るため、私たちは伝え
ていきたい」と誓った。

また「未来への伝承」
をテーマにした分科会
があり、南三陸町の小

【新井敦】